

# アコモード タイムズ



編集・発行

社会福祉法人アコモード

- 特養ホーム
- デイサービスセンター
- ヘルパーステーション
- 訪問入浴介護事業所
- 在宅介護支援センター  
(居宅介護支援事業所)

アコモード

千葉県我孫子市布佐1559-2  
TEL04(7189)5201(代)・7181-6666

**第11号**



## アコモードの小さな画廊

—藤村幸雄さんの作品—

余暇活動の作品、いろいろな行事の写真、書道クラブの作品、月刊の新聞『あさやけ』。これらはアコモードのホール、廊下に貼られているものです。そんな中に独特のタッチで描かれた、水彩画があります。これらの作者は藤村幸雄さん。のどかな田舎や森の風景、咲き誇る花々の絵など、そのどれもが味わい深いものばかりです。

絵を描かれるようになったのはごく最近のこと、最初はお自分の思い出だけを題材に描かれていたそうですが、今では雑誌などの風景写真をヒントに、思い出の風景画を描いたりもするそうです。そして次は童謡、唱歌などの歌の世界を描きたいのだそうです。これらは上肢のリハビリを兼ねていて、毎日少しずつの作業ですが、今では手の自由を実感できるまでになったそうです。

「日々の生活を大切に」  
藤村さんを見ているとその大切さが分かる気がします。



# 一歩ずつ前進

介護保険が始まって以降、サービスの向上が何度も取り上げられてきましたが、実際今までの業務では70名という利用者の人数に対応しきれず流れ作業のようになってしまいがち。せっかくショートステイをご利用いただいているも日々の仕事に追われ、利用者全員に満足のいく接し方ができずに四苦八苦してきました。そして絶対に避けなければならぬ利用者の転倒等の事故。職員の注意不足といったらそれまでですが、日常生活の中の大小様々な事故が目立つように感じられます。そこでこれまでの問題点をふまえての一大改革です！

- ・ 具体的には、
- ・ 通常業務ほか、リハビリや余暇活動など全ての業務を全スタッフが受け持つ。
- ・ 一般浴における3時間の入浴時間を60分延長する。
- ・ 施設内事故に対して

## の「事故対策委員」の発足。

事故対策委員については、事故または事故につながると思われるケースについての話し合いを行い、状況や原因など全スタッフが把握し、未然に防ぐことを目的としています。

また、これらを実施する事により利用者個人に対して様々な方面から理解し、支え、ゆとりある日常生活の提供ができるのではと期待されます。

平成16年度に増設されることで更に大所帯となる特養ホームですが、今後この改革が基盤となり利用者にとって居心地の良い特養となるよう、日々努力を続けて行きたいと思えます。



## 施設内研修

5月1日、デンタルサポート歯科室の先生3名をお迎えし、口腔ケアの施設内研修を行いました。

「日々の業務が忙しく外部の研修に参加できない」「処遇向上のため勉強したい。」等、職員の声が多くありました。

そこで、毎週木曜日に入居者の歯科診療に来ていただいている先述の先生に相談したところ、快諾していただきました。



による研修は今回が初めてとなりました。

日勤業務終了後の夕方6時からの開始でしたが総勢40名の参加となり、当日の夜勤帯勤務を除くほとんどの職員が集まりました。子供連れで参加した職員もいました。

- ・ 主な内容は、
  - ・ 歯を失なう原因
  - ・ 歯みがきの方法
  - ・ 義歯の手入れの方法
  - ・ 適正な用具の選択方法等
- 講師の方の説明は丁寧でかつ理解しやすいものでした。

日頃、教科書やマニュアルに従い口腔ケアを行っていましたが、その大切さ、効果を再認識することができ、また最新の情報を知ることができました。参加者は皆、満足し講師の方に感謝しています。

次回の施設内研修は6月に予定しています。今後もこのような研修を増やし、処遇向上に役立てていきます。

今後は職員だけではなく、地域の方にも勉強会として提供できればと考えています。



### 交通事故ゼロ運動

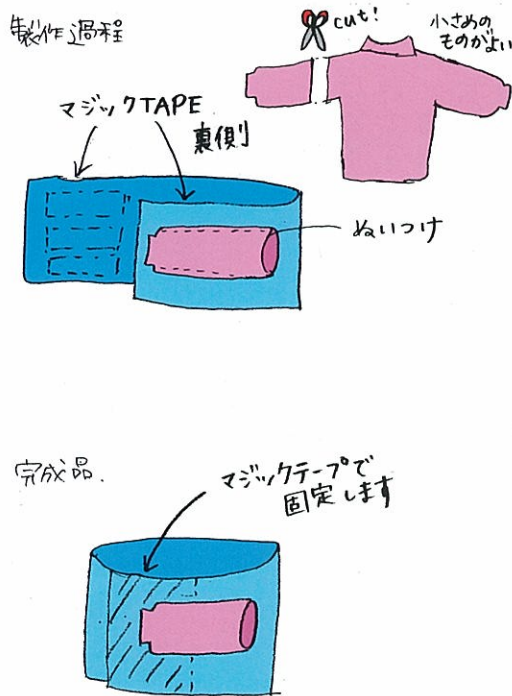
近年、デイスリーブス利用者ホームヘルパー利用者の増加により、車両を使用する機会が多くなりました。残念ながら、中・小の車両損傷が多発し増加傾向にありました。そこで次の標語を掲げ、事故防止に努めています。

- 一、心にゆとりを持ってハンドルを。
  - 一、添乗員は運転手と同じ気持ちで。
  - 一、前方、後方、巻き込み確認。
  - 一、利用者の安全を常に念頭におく。
  - 一、安全速度、十分な車間距離。
  - 一、運行前点検を忘れずに。
  - 一、体調を整えて運転しましょう。
- 安全は小さな気配りから生まれます。

出発前に必ず標語を確認。さあ、利用者のご家族の笑顔に会いに、今日も安全運転。

### 作ってみました！介護用品 胴体固定式腕支えベルト

弛緩性の麻痺の場合、麻痺側の腕が無防備になると打撲・裂傷の危険性があります。また腕の重みで肩脱臼をおこすこともあります。これらを予防し、かつ良肢位の保持、保温を目的として考え出されたのが「胴体固定式腕支えベルト」です。名前を聞くと複雑で分かり難いですが、作り方は簡単です。腕を通す部分には、要らなくなったトレーナーの袖を肘が隠れる長さに切ります。それを胴体に巻く布に平行に縫いつけます。胴体部分の布は、腕の重さに耐えられるか薄めであり、伸縮性のある物を選びます。これは、装着時胃を圧迫しないためです。最後に、胴体部分の布の裏側に、マジックテープをは長めにつけるとサイズの変化にも対応できるし、しっかりと固定することができます。



### 学校で学んだ事と現場との違い

私は、福祉の専門学校を卒業し、4月からアコモードの職員として働いています。専門学校で学んだ事と実際、老人施設等の現場では、さまざま違いがありますが、学校では『基礎』、現場では『応用』が一番の違いだと思います。学校で学ぶ『実技』で介助できる入所者の方もいますが、一人一人要介護度も異なります。学校で学んだ技術が全く役に立たない事も多々あります。又、技術だけでなく、痴呆の方との接し方等、教科書で学んだだけでは限界があります。現場で働き、痴呆の方には、驚きの毎日です。

『応用』とは、一人一人のニーズに沿った介助サービスを提供していく事だと思います。その為には、できるだけ入所者の方とのコミュニケーションをとっていかなくてはなりません。学校で学んだ『基礎』を無駄にする事なく、初心を忘れずに頑張りたいと思います。



# 広がる地域の輪

日本財団からの支援車両



平成14年4月、日本財団から送迎支援車両購入に対し、助成をいただきました。介護保険後、在宅サービス(特にショートステイとデイサービス)の利用者が急増し、送迎支援車両の使用頻度が上がりました。このような状況下、今回の助成は大変ありがたいものになりました。写真のように、車体には日本財団のシンボルマークの大きな笑顔が暖かくほほえみ、利用者からは「遠くからでも送迎に来たことがわかる」と好評です。

勿論デザインだけではなく、乗降の際の自動ステップや手すり、幅広のシートベルト等、利用者、職員にとっても優しい構造です。

この車両で送迎に行かないと、利用者が残念がるほどです。

本当にありがとうございます。大切に使用させていただきます。

## おめでとう

アコモードでは常勤、非常勤、パートを問わず、資格取得を積極的に勧めています。試験に合格すれば喜ばしいですが、たとえ不合格でも勉強する過程が大切と考えています。日々の業務に流されがちなのこの仕事、勉強することが、少しずつでも処遇改善や、己の視野を広げることにつながるからです。

今回、各資格の合格者を紹介させていただきます。

- 社会福祉士 小比賀啓子
- 介護福祉士 赤塚加代子
- 宇佐美徹 榎本千春
- 金平君子 木下克子
- 武田弘恵
- 介護支援専門員 渡辺豊
- 宮本賢治 宇佐美徹

## あとがき

アコモードタイムズも今回で11号となりました。これを機に、広報委員を大幅に変更しました。入居者のご家族向けの月刊「あさやけ」もども、より良い誌面を目指しますのでよろしくお願ひします。

(榎本 宮本(賢))

## 男前

この時期発生する

いやーな害虫その他。

カサカサカサ

あれは もしや!?

夜勤中に限って...

こんな虫だよ、と一撃粉砕する男性利用者。

さすが流石ー!!

ずん

7-94